

沖縄旅行

清水武義

24期原村農業委員会の任期、最後の3年目、準備に来た旅行の積立てを使う事になる。事前に旅行参考資料が手元へ届く。資料には2016年、元旦信濃毎日新聞の一面に、沖縄で「川上レタス」、沖縄県の恩納村に長野県の川上村が「レタス栽培の技術指導を行なう、農業交流プロジェクトが始まっている」と有る。川上村の夏の気温と恩納村の冬の気温が20℃前後と似通っている事が決め手のようだ。旅行はプロジェクトの視察研修を兼ねた、沖縄旅行となった。

2月16日、旅行の初日、現地に到着する。恩納村の役場のプロジェクト担当者から、恩納村でのレタス栽培の課題や、苦労話を交えた現況の説明をして頂いた。

印象に残った事を羅列して見る。

恩納村の人口は1万人余り、村内には大型ホテルも数多く、大小ホテルを合わせればかなりの数になるとの事。恩納村の観光インフラの大きさに驚いた。

恩納村がレタス栽培を行う地質は、サンゴの混った琉球石灰岩で、水の確保が一苦労との事。畑灌水は必要不可欠のようだ。道中、観光バスのガイドさんの案内でも聞いていたが、成る程、家々の屋根に水タンクが設置されている景色を見て来た。

有害鳥獣の、鳥による食害、糞害に加え、近年の気候変動の影響が、日照不足の傾向も見え始め、成育不良も起きている。圃場によっては強風による潮風でレタスの外葉の枯死が起る事もある。栽培中のレタスを現場で見ると、担当者の指摘も分る気

がした。

レタスの味は、地元ホテルのシェフによる評価は高いとの事。安定した品質と、供給できる量があれば、冬期生野菜の需要に地産地消で応えられると、担当者の説明は力強かった。

プロジェクト発足当初、生産者は若者と、年配者を合わせて18名が従事していたが、現在は2名の年配者が、村役場と共に、上川村の技術指導を受けながら、試行錯誤の積み重ねで、得た経験を活かし、取り組んでいる。栽培技術は、確実に前に進んでいると、恩納村プロジェクト担当者の意欲と熱意を感じた研修となった。

最後にひめかしの塔の見学をした。先の大戦で犠牲になった女子学徒隊の慰霊碑に手を合わせ、平和社会の尊さを改めて思う気持ちとなった。

初めての沖縄旅行は、有意義で且つ、貴重な体験を得た旅であった。